

NISSHA

Nissha Today

第101期 中間報告書

2019年1月1日—2019年6月30日

EMPOWERING
YOUR VISION



NISSHA株式会社

証券コード 7915

社長メッセージ	01
Milestone 90	04
特集 モビリティ(自動車)市場への事業展開を加速	05
業績ハイライト	07
トピックス	08
会社概要/株式の状況	09
コミュニケーション	10

社長メッセージ

株主のみなさまには平素より格別のご支援、ご鞭撻を賜りお礼申し上げます。
2019年12月期第2四半期(累計)の実績と今後の見通しについて、
代表取締役社長 兼 最高経営責任者の鈴木順也よりご説明申し上げます。



株主のみなさまには平素より
格別のご高配をたまわり
厚くお礼申し上げます。

鈴木順也

代表取締役社長 兼 最高経営責任者

2019年12月期第2四半期の経営成績

当第2四半期(累計)におけるグローバル経済情勢は、保護主義的な経済政策やこれに伴う通商摩擦などにより先行きに不透明感が広がり、一部地域において弱さが見られたものの、全体としては緩やかに回復しました。アメリカでは個人消費や設備投資の増加などにより景気の回復が継続し、欧州では一部に弱さが見られるものの緩やかに回復しました。中国では景気は緩やかに減速し、その他のアジア新興国では景気の回復は弱いものとなりました。わが国の経済は、足元

では輸出や生産の一部に弱さが見られるものの、景気は緩やかな回復を続けています。

現在、当社グループは事業ポートフォリオの組み換え・最適化による成長を骨子とする第6次中期経営計画(3カ年)を運用しています。主力のコンシューマー・エレクトロニクス(IT)に加え、モビリティ(自動車)、医療機器、サステナブルパッケージ資材を重点市場と定め、バランスの取れた事業基盤の構築を図り、グローバルベースの成長戦略の実践による企業価値の向上を目指しています。

2019年12月期第2四半期(累計)業績のポイント

売上高	営業利益	親会社株主に帰属する 四半期純利益	中間配当金
731億円 前年同期比0.8%増	▲58億円 前年同期は▲44億円	▲75億円 前年同期は▲67億円	1株当たり15円

当第2四半期連結累計期間の業績は、メディカルテクノロジー事業が堅調に推移したものの、デバイス事業や産業資材事業では製品需要が想定を下回り、生産部門の稼働が低下しました。

これらの結果、当第2四半期(累計)の業績は、売上高は731億円(前年同四半期比0.8%増)、利益面ではEBITDAは10億80百万円のマイナス(前年同四半期は1億32百万円のプラス)、営業損失は58億29百万円(前年同四半期は44億76百万円の営業損失)、経常損失は63億87百万円(前年同四半期は59億54百万円の経常損失)、親会社株主に帰属する四半期純損失は75億69百万円(前年同四半期は67億54百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

2019年12月期通期の見通し

2019年12月期通期につきましては、デバイス事業や産業資材事業において、製品需要が当初の想定よりも減少する見通しです。通期業績予想につきましては、当第2四半期(累計)の実績および最新の製品需要の動向などを踏まえて売上高は1,800億円、EBITDAは118億円、営業利益は15億円に修正いたしました。

なお、為替レートは、1ドル=107円を前提としています。

中期経営計画の進捗

現在の主力事業であるデバイス事業は、主にスマートフォンやタブレットなどのIT市場向けに製品を供給しています。この

2019年12月通期業績予想

(百万円)

	2018年12月期 (実績)	2019年12月期 (2019年8月6日発表)	事業別売上高	
売上高	207,404	180,000	産業資材	48,000
EBITDA	17,343	11,800	デバイス	99,500
営業利益	8,071	1,500	メディカルテクノロジー	25,000
経常利益	7,370	500	情報コミュニケーション	7,100
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,308	0	その他	400
1株当たり当期純利益(円)	85.52	0.00		

中期ビジョン「バランス経営の完成」 ITと非ITのバランスを実現する

IT

収益性・効率性の維持・追求

IT



非IT

成長戦略 (M&A) の実行

モビリティ(自動車)

医療機器

サステナブルパッケージ資材



市場には、技術トレンドの目まぐるしい変化や製品需要の急激な変動などのリスクがあり、今回の業績予想の修正に見られるように、当社の業績に大きな影響を与えることがあります。こうしたことから、当社はIT市場に加えてこれ以外の市場(非IT市場)で事業を拡大し、ITと非ITのバランスを保つこと(バランス経営の完成)を中期ビジョンに掲げています。非IT市場での事業拡大とは具体的に、グローバルレベルで安定成長が見込まれるモビリティ(自動車)、医療機器、サステナブルパッケージ資材の3つの市場でM&Aを活用した成長戦略を加速することであり、そのターゲットは徐々に定まりつつあります。

足元では、IT向けの製品需要が減少していますが、こうした局面においても当社は将来を見据え、中期ビジョンの実現に向けて成長戦略を着実に実行する考えです。

成長戦略に必要な投資資金には、既存事業が創出する営業キャッシュフローに加え、2020年12月までに投資有価証券や遊休固定資産など、総額100億円規模の非事業資産の売却によるキャッシュを活用する予定です。

今後のNISSHAの成長戦略に注目していただければ幸いです。

配当について

当社は、株主のみなさまへの利益配分につきましては、安

定配当の継続を基本方針に、当期および今後の業績、配当性向、財務面での健全性などを総合的に勘案して配分することとしています。2019年12月期の中間配当金は1株につき15円とさせていただきます。2019年12月期の期末配当については、創業90周年の記念配当(5円)を含め1株につき20円(年間配当金1株当たり35円)の予想としています。

最後に

当社のMissionは「人材能力とコア技術の多様性」を成長の原動力に、高い競争力を有した特徴ある製品・サービスの創出により、お客さま価値を実現し、「人々の豊かな生活」の実現に寄与することを掲げています。このMissionのもと、中期経営計画の完遂、すなわち「バランス経営の完成」により企業価値の向上を目指してまいります。

また当社は2019年10月6日に創業90周年を迎えます。2019年を過去から未来へ向かう重要な通過点として「Milestone 90」と名付け、さらなる成長を目指していく所存です。

株主のみなさまにおかれましては、当社グループの今後の成長に向けて、今後ともより一層のご支援をお願い申し上げます。

Milestone 90

NISSHA株式会社は、2019年10月6日、創業90周年を迎えます。

2019年を過去から未来へ向かう重要な通過点として「Milestone 90」と名付け、さらなる成長を目指していきます。

Milestone 90からその先へ

NISSHAグループは、1929年の創業以来培ってきた印刷技術にコーティング、ラミネーション、成形、パターンニングなどの多様な技術要素を融合させながら常にコア技術の拡充を図り、事業の多角化とグローバル市場への進出によって成長してきました。当社の製品は、多種多様な市場に価値を提供しています。

市場ニーズに対応して、常に変化しながら成長を実現してきたNISSHA。この先100周年、150周年を見据えて、今後も進化を続けます。

これからも「人材能力とコア技術の多様性」を成長の原動力に、高い競争力を有した特徴ある製品・サービスの創出により、お客さま価値を実現し、「人々の豊かな生活」の実現に寄与します。

MILESTONE 90

創業90周年のロゴを制定しました。当社のコーポレートカラーであるブルーを使用し、当社ロゴで表現されているデザインを用いています。過去から未来へ向かう重要な節目を迎える引き締まった気持ちを表現しています。

Milestone 90のビジュアルを さまざまな媒体で展開

当社は、Milestone 90のメッセージを表現したビジュアルを、5月下旬よりさまざまな媒体で展開しています。このビジュアルは、多国籍の子どもたちがともに未来へ前進する姿を通して、多様な人材能力と情熱を結集し、未来に向かって成長を続けるNISSHAの姿を表現しています。

コーポレートWebサイトのトップページやJR京都駅の新幹線上り(東京方面)プラットフォームの大型看板などに掲出していますので、機会がございましたら、ぜひご覧ください。なお、掲出内容は適宜変更していく予定です。



NISSHA株式会社 コーポレートWebサイトのトップページ

特集 産業資材事業とデバイス事業の強みを融合し、 モビリティ(自動車)市場への事業展開を加速

当社は、中期経営計画において自動車を重点市場の一つと定め、産業資材事業はIMD、IMLなどの加飾フィルムや成形品、デバイス事業はフィルムタッチセンサーや水素ディテクターなどの拡販に取り組んでいます。当社は2019年7月、これら二つの事業が一体となって自動車市場向けの市場機会を獲得するためのタスクフォースとして、モビリティ事業推進ユニット(以下、本ユニット)を新設しました。

自動車市場は、現在、100年に一度と言われるような大変革期にあり、CASE(Connected(つながる), Autonomous(自動運

転), Shared(共有) and Service(サービス), Electric(電動化)の頭文字を取ってCASEという)に代表されるトレンドなどにより、移動に関する社会システム全体を対象とする市場へと変化・進化しつつあり、当社はそれを「モビリティ市場」と捉えています。

例えば、自動車はもはや単なる移動手段のための装置ではなく、巨大なデータの送受信を伴いながら自ら考えて移動する大型のスマートフォンのようなものになりつつあります。またそれを可能にする社会インフラの整備は進んでいます。こうした事業環境の変化により、NISSHAの提供する価値も変化しています。車内の快適

産業資材事業(加飾製品)

IMDフィルム、成形品



IML成形品



加飾フィルム



強みの融合



性に注目した従来型の加飾製品に加え、乗員と車両や社会ネットワークとのインターフェースを実現する新たな機能的製品が既存の加飾製品と融合される可能性があります。実際に足元では、そのようなトレンドを意識したお客さまからの問い合わせや試作依頼が増えています。

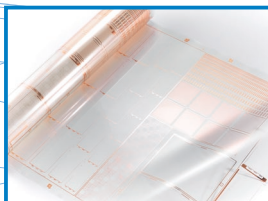
本ユニットは、既存製品の拡販に加え、IME (In-Mold Electronics) などの新技術や新製品の拡充による成長戦略を展開します。2025年を目途に、同市場向けの連結売上高500億円を目指します。

IME (In-Mold Electronics) とは?

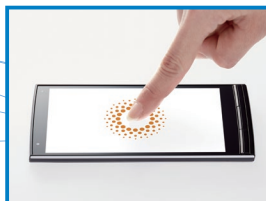
IMEは、プラスチックの加飾成形品にタッチセンサー、光源、ヒーター、アンテナ等、さまざまな機能的製品が付加された NISSHA ならではの付加価値製品です。成形品の表面には加飾フィルム以外にも、本空や布地を扱う事も可能です。多様な意匠表現と機能を融合することにより、お客さまのニーズに応えます。

デバイス事業 (機能的製品)

フィルムタッチセンサー



フォースセンサー



ガスセンサー

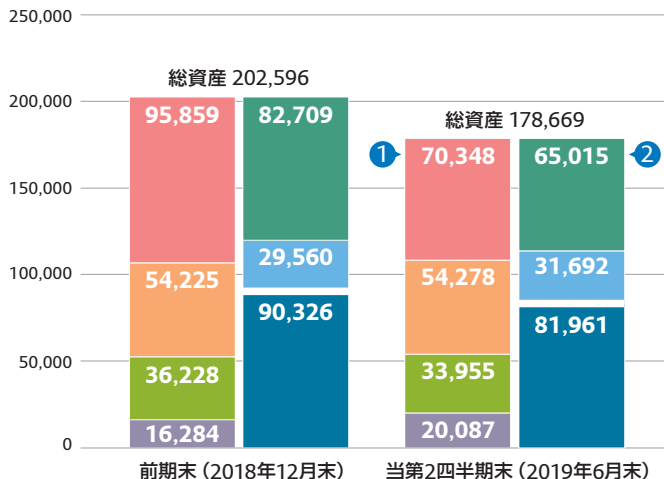


2019年12月期第2四半期(累計) 業績ハイライト

連結貸借対照表

■ 流動資産 ■ 有形固定資産 ■ 無形固定資産 ■ 投資その他の資産
■ 流動負債 ■ 固定負債 ■ 純資産

単位：百万円



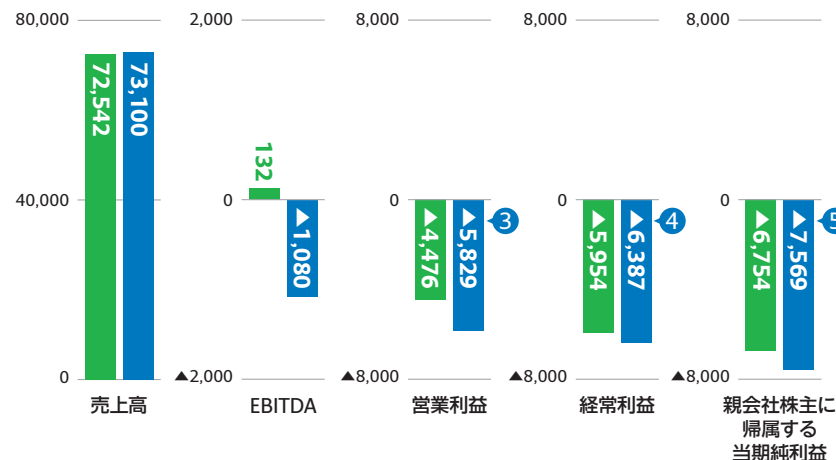
POINT

- ① 現預金や受取手形および売掛金、商品及び製品の減少などにより、流動資産が減少しました。
- ② 短期借入金が増加した一方、支払手形および買掛金が減少したことなどにより、流動負債が減少しました。
- ③ メディカルテクノロジー事業が堅調に推移したものの、デバイス事業や産業資材事業では製品需要が想定を下回り、生産部門の稼働が低下したことなどにより、58億29百万円の営業損失となりました。
- ④ 円高に伴う為替差損の計上などにより、63億87百万円の経常損失となりました。
- ⑤ 減損損失、固定資産売却損の計上などにより、75億69百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失となりました。

連結損益計算書

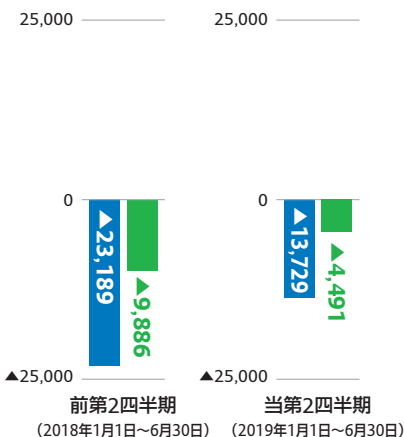
■ 前第2四半期: 2018年1月1日～2018年6月30日
■ 当第2四半期: 2019年1月1日～2019年6月30日

単位：百万円



連結キャッシュ・フロー計算書

■ 営業CF ■ 投資CF



トピックス

3期連続の「くるみん」認定に続き 「プラチナくるみん」を取得

当社は、2019年3月に厚生労働大臣から「プラチナくるみん」の認定を取得しました。

「プラチナくるみん」とは、次世代育成支援対策推進法に基づき、社員の子育てをサポートする企業として認められた「くるみん」認定をすでに取得し、さらに高い水準の取り組みを実践している企業を認定する制度です。

当社は、2009年から3期連続で「くるみん」認定を受けております。今後も、社員一人ひとりが最大限に能力を発揮できる職場づくりを目指すとともに、さまざまなかたちで社員のワーク・ライフ・バランスの実現をサポートしていきます。



第63回 京都府発明等功労者表彰 最優秀賞を受賞

タッチセンサーに関する当社の特許が、第63回 京都府発明等功労者表彰の最優秀賞を受賞しました。京都府が主催するこの表彰は「発明考案・創意工夫の重要性を広くアピールし、科学技術の発展及び発明考案・創意工夫に対する意欲の向上を図る」ことを目的とし、1957年から毎年開催されています。

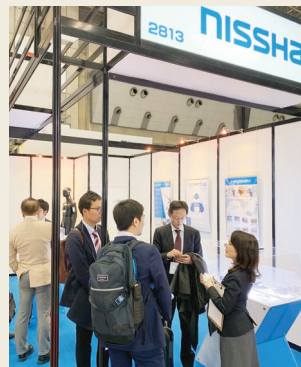
当社が有する特許は「優れた発明考案によりタッチセンサーの飛躍的な売上高の拡大に貢献した」ことを評価され、「発明考案功労者」として表彰された28件の中から最優秀賞に選ばれました。



アジア最大級の医療機器展示会 「Medtec Japan」に出展

当社は2019年3月に東京ビッグサイトで開催された「Medtec Japan」に出展しました。この展示会は、医療機器の設計・製造に関するアジア最大級の展示会です。

当社のメディカルテクノロジー事業はグローバルベースで大手医療機器メーカー向けに受託製造事業「Biomedical Innovations®」を手掛けるとともに、医療機関向けには自社ブランド「Vermed®」を展開しています。展示会ではウェアラブル・生体センサーや手術用器具などBiomedical Innovations®で手掛ける医療機器を中心に展示し、当社のコア技術を活用した研究開発力や、海外拠点を活用したワンストップでのサポート体制(設計・開発・製造)について紹介しました。



日産デイズ、三菱eKワゴンの エアコン操作パネルに当社の加飾成形品が採用

産業資材事業が手掛ける加飾成形品が、2019年春に発売された日産自動車株式会社の「日産デイズ」および同車系である三菱自動車株式会社の「eK wagon(ワゴン)」「eK X(クロス)」のエアコン操作パネルに採用されました。お客さまの要求スペックを満たすハードコート機能と質感の高い色の再現性を評価いただき、前回の同車モデルに引き続き採用されました。



会社概要

商号 NISSHA株式会社
 創業 1929年10月6日
 設立 1946年12月28日
 資本金 121億1,979万円(2019年6月末現在)
 社員数 単体826人、連結5,826人(2019年6月末現在)
 拠点数(子会社含む) 国内14カ所
 海外39カ所(持分法適用会社含まず)

役員の状況 (2019年6月末現在)

取締役		
代表取締役社長 兼 最高経営責任者	鈴木 順也	
取締役	橋本 孝夫	
取締役	西原 勇人	
取締役	井ノ上 大輔	
取締役	渡邊 亘	
取締役(社外)	大杉 和人	
取締役(社外)	安藤 誠	
取締役(社外)	アスリ・ Cholpan	
取締役(社外)	松木 和道	
監査役		
常勤監査役	小西 均	
常勤監査役	野中 康朗	
監査役(社外)	桃尾 重明	
監査役(社外)	中野 雄介	

執行役員		
専務執行役員 兼 最高技術責任者	橋本 孝夫	
専務執行役員 兼 最高財務責任者	西原 勇人	
常務執行役員	井ノ上 大輔	
上席執行役員 兼 最高戦略責任者	渡邊 亘	
上席執行役員	サム・ヘレバ	
上席執行役員	面 了明	
上席執行役員 兼 最高品質責任者	山口 秀則	
上席執行役員 兼 最高情報責任者 兼 最高サプライチェーン責任者	青山 美民	
上席執行役員	西本 裕	
上席執行役員	バート・デボス	
執行役員	礪 尚	
執行役員	寺下 勝	
執行役員	菅野 武男	
執行役員	奥村 秀三	
執行役員	岸 圭司	
執行役員	杉原 淳	

株式の状況

(2019年6月末現在)

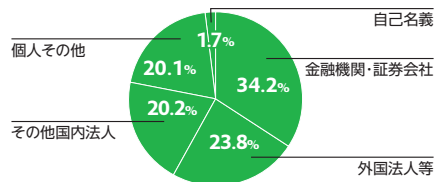
発行可能株式総数 180,000,000株
 発行済株式の総数 50,855,638株
 株主数 11,474人

大株主

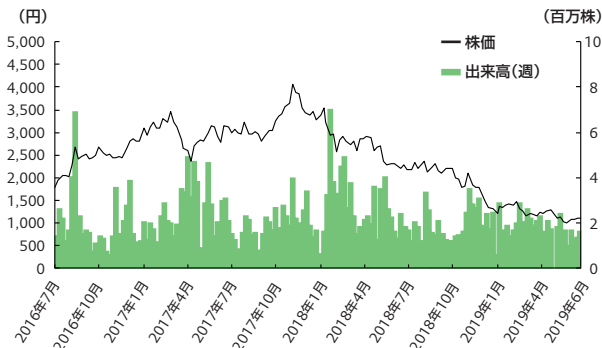
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
鈴木興産株式会社	2,563	5.12
明治安田生命保険相互会社	2,341	4.68
タイヨー ファンド エルビー	2,170	4.34
株式会社みずほ銀行	2,076	4.15
タイヨー ハネイ ファンド エルビー	2,058	4.11
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,723	3.44
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,520	3.04
株式会社京都銀行	1,442	2.88
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー		
505227	1,406	2.81
ニッシャ共栄会	1,053	2.10

※持株比率は、発行済株式の総数から自己株式を控除して計算しています。

所有者別株式数比率



株価(2016年7月～2019年6月)



コミュニケーション

前回のアンケートでは387人の株主さまから貴重なご意見をいただきました。多くの声をお寄せいただき誠にありがとうございました。株主さまからいただいたご意見の一部と、当社の取り組みをご紹介します。

ご意見

- NISSHAがどのように人材を育成しているか知りたい。
- NISSHAイノベーションセンター KYOTOから新しい技術や製品が開発されることを期待しています。

NISSHA

創業90周年記念事業の一環として本社構内に開設された「NISSHA技術道場」は、当社のコア技術の体感施設です。道場では技術者が実際に機械を操作して、5つのコア技術(印刷、コーティング、ラミネーション、成形、パターンニング)の特性を体感することによって、ナレッジ(知識)とエキスペリエンス(経験)を高めることができます。道場は、NISSHAの競争優位源泉である技術の伝承と、未来を担う技術者の人材育成を促進しています。



NISSHA技術道場

アンケートご協力のお願い

株主さまからいただくアンケートへのご回答は、当社の経営やIR活動に対する貴重なご意見として参考にさせていただいております。今後ともアンケートにご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

京都本社の構内にあるNISSHAイノベーションセンター KYOTOには、多様な能力を持つ技術者など約400人が集結すると共に、研究室や実験設備が集約されています。これにより、事業の垣根を越えた技術の融合や技術開発の活性化・効率化を図り、グローバル市場に向けた製品開発を加速させています。社員向けのセミナーやワークショップが頻繁に開催され、当社の新たな技術や製品などについて、開発を担当する社員が講師となって講義などを行い、聴講を希望する社員は自由に参加することができます。社員の知識向上に貢献するだけでなく、部門を越えた交流やアイデアの広がりを生みだし、社員にとってよい刺激となっています。



NISSHAイノベーションセンター-KYOTO



イノベーションセンターでのワークショップ

株主メモ

株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都中央区八重洲1-2-1 みずほ信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都中央区八重洲1-2-1 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
各種お手続きの お取扱窓口	お取引の証券会社等/ 特別口座管理の場合は、特別口座管理機関のお取扱店
特別口座管理機関 お取扱店	みずほ証券およびみずほ信託銀行 フリーダイヤル 0120-288-324(土・日・祝を除く 9:00~17:00)
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行およびみずほ銀行 (みずほ証券では取次のみとなります)
単元株式数	100株
公告方法	電子公告(https://www.nissha.com/)ただし、やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います
上場証券取引所	東京

ご注意

このNissha Todayに掲載されている情報のうち業績の目標、計画、見通し、戦略、そのほか過去の事実ではない情報については、現時点で入手可能な情報に基づいて当社の経営者が合理的と判断したもので、リスクや不確実性を含みます。実際の業績は、経済動向、市場需要、為替の変動などのさまざまな要因によって大きく変わる可能性がありますことをご承知おきください。このNissha Todayに掲載されている業績に関する記述は、特に注記がない限り全て連結ベースとなっています。

IR情報に関するお問い合わせ

NISSHA株式会社

コーポレートコミュニケーション部 IRグループ

〒604-8551 京都市中京区壬生花井町3
tel.075-811-8111(大代表)

NISSHAの事業

NISSHAは、4つの事業を展開しています。

■ 産業資材

産業資材は、さまざまな素材の表面に付加価値を与える独自技術を有する事業です。プラスチックの成形と同時に加飾や機能の付与を行うIMD、IMLおよびIMEは、グローバル市場でモビリティ(自動車)、家電製品、スマートフォンなどに広く採用されています。また、金属光沢と印刷適性を兼ね備えた蒸着紙は、飲料品や食品向けのサステナブルパッケージ資材としてグローバルベースで業界トップのマーケットシェアを有しています。

■ デバイス

デバイスは、精密で機能性を追求した部品・モジュール製品を提供する事業です。主力製品であるフィルムタッチセンサーはグローバル市場でスマートフォン、タブレット、携帯ゲーム機、産業用機器、モビリティ(自動車)に幅広く採用されています。このほか、気体の状態を検知するガスセンサーなどを提供しています。

■ メディカルテクノロジー

メディカルテクノロジーは、医療機器やその関連市場において高品質で付加価値の高い製品を提供し、人々の健康で豊かな生活に貢献することを目指す事業です。心疾患分野で使われる手術用器具や医療用ウェアラブルセンサーなどを主力製品としており、現在はグローバルベースで大手医療機器メーカー向けの受託製造事業(製品設計~開発~製造の一連の工程を手がける事業)を展開するとともに、医療機関向けに自社ブランド品を製造・販売しています。

■ 情報コミュニケーション

情報コミュニケーションは、出版印刷やアートソリューションなど高精細で高品位な色調再現が活かせる分野に注力しているほか、商業印刷やセールスプロモーション関連のサービスを提供しています。

